

事例30

< 事例概要 >

迷入

- ① 60 歳代、意識障害、消化管疾病（潰瘍性大腸炎：下痢、著明な栄養障害）の患者。
- ② 栄養管理のため、中心静脈カテーテル留置予定。
- ③ BMI 19.2 kg/m²。脱水あり。抗血栓薬の使用なし。
- ④ 右内頸静脈より1 回目は作図法で、2 回目はリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。ガイドワイヤー挿入時に抵抗あり、超音波の長軸像でガイドワイヤーの位置確認をした。カテーテル挿入後、逆血を認め、X線でカテーテルの先端位置を確認し、高カロリー輸液を開始。翌日、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）70%台へ低下、心肺停止。救急蘇生の際にカテーテルより救急治療薬を投与。急変時に撮影したX線、CT でカテーテル先端の右胸腔内迷入を認めた。低酸素脳症を発症し、輸液開始から約1 か月半後に死亡。
- ⑤ 死因は、低酸素脳症（胸腔内輸液貯留に伴う呼吸不全が影響した可能性）。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。